

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		30年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト		
事務事業名	クルーズ船誘致の推進				連絡先	052-654-7835
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船		事業期間	連携先	危機管理課、関連事業室、海防課、港湾管理事務所
	意図(どうい う状態にしたいか)	名古屋港へのクルーズ船の寄港増加に向けた取組を進め、港の魅力や親しみの向上を図ります。				
概要	名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議で策定した「名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画」に基づき、クルーズ需要喚起に向けた情報発信や魅力発信に取り組めます。				根拠法令等	
令和元年度の実施予定	クルーズ需要喚起に向け、ホームページやフェイスブック等のSNSを活用し、船内見学会やクルーズ船情報を発信します。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	クルーズ需要喚起に向け、ホームページやフェイスブックを活用し、船内見学会の参加者募集やクルーズ船寄港予定のほか、クルーズセミナー開催の情報を発信しました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	28,347	79,518	843	36,236	令和元年度から事業費の考え方を見直したため、事業費は減少しています。
人件費	千円	17,921	17,977	17,889	17,929	
合計	千円	46,268	97,495	18,732	54,165	

3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
情報発信数(件)	目標			10	40	一般市民向けにSNSを活用したクルーズ船情報発信数	
	実績	4	21	10			
(単年度管理型)	事業進捗状況(元年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	目標					新型コロナウイルス感染症の影響でクルーズ船寄港の中止もありましたが、関係団体が主催するイベントの開催案内についても情報発信を行い、目標値を達成することができました。	
	実績						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ クルーズ船の誘致推進は港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考えます。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ 港の認知度向上に資するように努めていく必要があります。					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ クルーズ船への親しみを深め、関心を高めることが施策目標の達成には必須の条件と考えます。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○ 寄港数は前年と比べほぼ同程度あり、うらおいと魅力のある港湾空間の形成に貢献していると考えます。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 実施に当たっては直接的な支出を抑えて行っています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	縮小	縮小	「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて港ににぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を進める必要があるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の外航クルーズ船社等へのポートセールス実施が困難であるため成果・コストを縮小とします。
	資源(財・人)の投入を縮小し、取組を一時的に縮小する。		
課題		2年度以降の取組	
新型コロナウイルス感染症により、クルーズ船寄港に係る県民・市民の不安の高まりが考えられます。よって、これまでに行ってきたクルーズ需要喚起のための情報発信のみならず、クルーズ船の感染拡大予防ガイドライン等の情報発信を実施していく必要があります。		新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度のクルーズ船の寄港が見通せないものの、再開後はクルーズ需要喚起に向けた情報発信に取り組むとともに、クルーズ船受入時における感染拡大予防対策など、安全・安心の取り組みを県民・市民に対し情報発信していきます。	